

# 平成29年度 兵庫県・神戸市調整会議 議事要旨

日時：平成29年11月29日（水）16：00～17：30  
場所：相楽園会館 大ホール

## 1. 市長 開会あいさつ

井戸知事をはじめ、兵庫県の幹部、ご出席の皆様方には神戸市政の推進のために日頃から様々なご支援を賜っておりますことに感謝を申し上げたい。本日は、兵庫県議会から黒川治議長、高橋しんご副議長、神戸市会から北川道夫議長、川原田弘子副議長にご出席いただき、調整会議の役割をしっかりと果たすことができると考えている。

今年、神戸港開港150年記念事業として様々な事業を行ったが、須磨の海水浴場の遠浅化、メリケンパークの再整備など後々にも残る整備事業も行った。井戸知事には、実行委員会の顧問として参画をいただき、多くのご支援を賜ったところであり、改めて御礼申し上げる。

来年は、兵庫県政150周年という非常に記念すべき年であり、私どもも一緒にこれを祝い、後々に残るような成果を上げることができればと考えている。

兵庫県と神戸市の連携により、いろいろなプロジェクトが進んでいる。時間が限られているため、1つ1つ詳しくお話はできないが、例えば、新長田の合同庁舎の事業。

本日、新長田の進捗状況を見てきたが、工事は順調に進んでいた。平成31年度中の供用を目指して進めていきたいと思っているので、引き続きのご支援をお願いを申し上げます。

また、三宮の再整備など都心の整備については、土地がないため1つ1つの施設を動かしていかなければならない。これに関連する神戸市の施設をどう動かすのかということについて、大倉山の文化ホールや中央区役所など一定の考え方を整理し、発表させていただいた。ぜひ、目に見える形で迅速に進めていきたいと思っているので、ご支援をお願い申し上げます。

さらに六甲山の活性化については、これまでも兵庫県から様々な支援をいただき、共同のプロジェクトチームによる検討を進めてきた。一定の事業は進めてきたが、まだ目に見える成果が上がっているとは言えないので、本日は大きなテーマの1つにしている。前に向かって進めることができるように、率直な意見交換ができればと考えているので、よろしく願いしたい。

## 2. 知事 開会あいさつ

これからの時代、財政的にも行政的にもそう余裕があるわけではないので、県と市が方向を十分に見定めて一緒に取り組んでいかななくてはならない。そのような大きな枠組

みを形成しながら、県・市それぞれの役割を果たさしていただければありがたいし、そう決意しているところである。

来年、県政 150 周年を迎えるが、実を言えば神戸港も来年の 1 月 1 日に開港されたわけであり、その 7 カ月後に兵庫県が誕生している。切っても切れない関係があるので、私どもとしても 150 周年をいろんな諸事業を展開することによって迎え、そして、明日の課題に立ち向かっていきたいと考えているので、県庁所在地としての神戸市にもご協力をよろしくお願い申し上げます。

課題はいろいろあるが、やはりどう活力を持続させていくか、そこにはもちろん人々の気持ちの面もあれば、産業の面でどう活性化させていくかということもある。あわせて、安心を確保するという意味で、2025 年問題などへのきちんとした道筋を描くということもある。さらに、23 年目を迎える阪神・淡路大震災の経験を生かした安全な地域づくりということもある。全て県市共同して取り組むべき課題ばかりであり、本日のこのような情報共有の機会も大切にしながら、それぞれの役割を存分に果たしていけるように進めていければと願っている。

### 3. 資料説明（資料 1）

<省略>

### 4. 意見交換

#### （1）県政 150 周年記念事業の推進

（県議会副議長）

今年の神戸開港 150 年に続いて県政 150 周年を来年兵庫県で行うが、有形・無形のレガシーを次の時代にいかに残すかが大事なことだと思う。「記念事業をやってよかった」、「一時的に人が来て何か盛り上がった」で済ませるのではなく、何かきちんとしたものを残したい。初代県庁舎をただ造るのではなくて、県ができた歴史をしっかりと勉強してもらい礎にしてもらいたい。それから県政 150 周年の県民連携事業、これは知事の肝入り事業で、兵庫県民が自分たちの地域を勉強して、それを他に啓発するような事業を幅広く支援したいというものである。そういった参加型のソフト的なレガシーを引き継ぐための何か工夫や好事例が神戸市であったら教えてほしい。

（岡口副市長）

開港 150 年記念事業の中で、施設整備や 30 年後の神戸港という取組みを実施した。

市民と連携したソフト事業に関しては、地域の祭りなどで市民と連携した取り組みを行ったので一例をご紹介させていただく。例えば東灘区では、だんじりを中心にした祭りを取り組み、東灘区民の皆様にも多く参加いただいた。また、兵庫区では、これまで

別々に開催していた祭りを、開港 150 年を契機に一緒に開催した。これは、今後、兵庫区の南部を活性化するためにも続けていけるモデルになったと考えている。

(市会副議長)

初代県庁が存在した同じ頃に、和田岬に和楽園という遊園地があった。そこで博覧会が開かれ、水族園を造ったのが今の須磨水族園につながった経緯がある。また、和楽園の文字は伊藤博文さんが書いたというようなことも資料で見たことがあるので、地域一帯の歴史を復元されるのであれば、和楽園の要素も県庁復元時に取り入れられないか。

(県政策創生部長)

県庁発祥の地は 2 回ほど検討委員会を開催している。直近では 11 月 21 日に開催し、地元の方からご意見を伺いながら進めている。その中で単に初代県庁復元施設の建設だけでなく、体験機能、学習機能、展示機能、といったものが欲しいというような意見が出ている。まだ詳細に決まった計画があるわけではなく、いろいろな方のご意見を聞きながら、どういう形で復元整備していくのかを決めていく段階である。いろんな方のご意見を聞きながらやっていきたい。

(知事)

初代県庁の勤番所はそのまま復元したいが、同心屋敷などは県政資料館として数が増えても構わない。高い建物を建てないで同心屋敷がたくさん並んでいるイメージで、同心屋敷群が県政資料館や研修施設になったりとか、そういう形が面白いのではないかと考えている。和楽園は県政資料の中には入れられるが、この土地の中に和楽園を復活するわけにはいかないと思う。

## (2) 兵庫・神戸の活力創出

(県議会副議長)

六甲山の活性化が、まだまだ十分できていないと私どもも感じている。保養所を含めた財産があるにも関わらず、上手くいっていない。検討のためプロジェクトチームを立ち上げ、今後、新しく再生委員会も立ち上がるようだが、現状をもう一度確認したい。

(市経済観光局長)

摩耶地域は特別保護地区、第 1 種特別地域として、非常に厳しい規制がかかっているエリアになる。これまで要望等で国に再三お願いしているところだが、これを第 2 種特別地域に変えていただくということや、施設計画の中では単独施設しか認められていないものを、集団施設地区に位置づけられないかといった規制緩和を国にお願いしているところである。

現在、国でも国立公園六甲山の公園計画を規制だけでなく、活用も考えるという方向で見直そうという動きがある。この動きに合わせて、国で六甲山トレイル満喫プランや

眺望満喫プランの策定に取り組んでいただけるということなので、国の支援も積極的に活用しながら実施していく。

また、昨年から県市協調で取り組んでいる事業についても、今年度は既に2件実績が上がっており、相談案件も10件程出てきている。こういった事業を活用し、少しずつでも活性化につなげていきたいと考えている。

(知事)

六甲山については2年間ほとんど動いていないというのが実情である。

幾つか提案だが、1つは六甲山の利用の方向づけをエリアごとに想定して、摩耶なら摩耶、その他の地域はその他の地域とかエリアを区分して高度利用していくような対応をしなければならない。どこからどこまでが六甲山で、どこをどうしようとしているのかが明確でないので、まず土地利用計画をまとめていかないといけないのではないかと。そのうえで、高さ規制や土地利用規制の緩和を具体的に提案していかなければならない。六甲山は市街化調整区域に入っているが、例えば、県においては土地利用計画をつくれれば開発許可ができる制度もある。そういったことも参考に市でもしっかり検討していただきたい。

2つ目は、六甲山ホテルに関して民間事業者が活用計画を持っていると聞いている。国立公園事業に位置づければ規制がほとんどなくなるので、民間事業者が持つ計画の評価をきちっとする必要があるが、国立公園計画にも反映する必要があるのではないかと。

3つ目は、安藤忠雄氏のつくった風の教会についてである。最近ようやく動き出そうとしていると聞いているが、そういうことも含めて、やはり利用の方向性を明確にしていく必要があるのではないかと。

4つ目は助成の規模が小さいこと。個人宅を対象とする場合は良いが、施設を更新しようとするとはいえない。どの程度やればいいのか、あるいは補助なのか融資制度を特別に用意するのか。このようなことも含めて、制度を検討したほうが良いのではないかと。

また、六甲山はすばらしい景観を持っている地域なので、インバウンドの人たちにも保養所に宿泊してもらえないか。そのためには外国人旅行者が泊まれるような施設に変えていく必要があるし、そういう具体的な提案をまとめた土地利用計画を早急にまとめないといけない。プロジェクトチームでぜひ検討していただきたい。

最後に、暴走族による夜中の騒音がうるさくて困るという声を聞く。取り締まりを強化してくれという話だが、取り締まりだけでは対応が難しいところもあるので、物理的な対策をやるべきではないかと。市道にコブのような段差を作ってはどうか。

県で一定以上の騒音が出たらカメラでナンバーを撮る装置やスピード違反を取り締まるオービスの導入を検討していくので、それらを組み合わせて、徹底的に暴走族は排除するというのを相談したい。

(市長)

知事のご提案は全く同感である。神戸市で、土地利用計画をどうつくっていくのか、エリアをどう分けるのかということをよく検討して、県にご提案をできればと考えている。また、暴走族対策についても検討課題にさせていただく。

(市会副議長)

表六甲側の利用の話が多かったが、裏六甲側は民有林が多く間伐があまり行き届かないこともあり、3年前の台風の際には大変なことになった。民有林の間伐がなかなか進まない現状の中で、県議会では木材利用の条例をつくられて、知事も前向きに取り組まれている。宍粟市には大きな木材加工センターができていることもあるので、連携して何か取り組みを進めていけないかと感じている。

(県環境部長)

国有林は国が整備をしているが、それ以外は森林所有者が管理している。数年前に一度崩れたりすることがあった。人的被害はなかったが、県の事業を活用して取り組みを進めているところであり、その事業を推進していきたいと考えている。

(知事)

現在、民有林に県民緑税を入れて、森林の防災機能の強化を図っている。民有地が繁茂し過ぎており、少し間引かなければならないが、森林管理100%作戦の要件に該当するかどうか課題である。

### (3) 次世代産業の育成

(市会議長)

医療産業都市は構想の時代から数えて来年で20年を迎え、これまで344社の関連企業や様々な病院等が集積している。12月には県のご尽力により、県立こども病院の隣に神戸陽子線センターがオープンする。また、同日に開設される神戸アイセンターは基礎研究から臨床応用、治療、それから視覚障害者の生活支援(ロービジョンケア)に至るまでを1つの施設の中で一貫通貫で対応する国内で初めての施設である。世界でもあまり例がない画期的な施設が国内で唯一神戸にできるので、こども病院、神戸陽子線センターなどと連携して医療産業を盛り上げていただきたい。

また集積企業数は344社あるが中身はこれからであり、今は医療研究都市になっているのではないかと感じる。現在、厚生労働省や経済産業省では医学と工学と薬学の連携を進めており、工学と薬学、医工薬連携というのがキーポイントになっている。この辺のことも県・市が連携してやっていきたいというのが私の思いである。

本来、企業誘致は神戸市の役割だが、兵庫県におかれてもぜひ環境整備を進めていただきたい。

もう 1 点、神戸には低侵襲がん医療センター、神戸大学の外科に特化した医療施設、チャイルドケモ・ハウス、神戸陽子線センターなどのがんの治療や研究開発の拠点施設がある。

最近、国はがんの遺伝子を解析して個別に抗がん剤で対処するゲノム医療に取り組んでいるが、アメリカに比べて日本は 10 年ぐらい遅れている。やっと国が動き出したところなので、このがんの特化した病院機能を活かしていきたい。

明石の県立がんセンターがこの分野では一番進んでいる病院である。現地建替えの方針と報道されているが、ゲノム医療、プレジジョン・メディシンにもついてもがんセンターと神戸が連携して一緒に取組んでいきたい。

(知事)

医療産業都市が 20 年でここまで集積できたのは、これは非常に大きな功績だったのではないかと考えている。

また、ゲノム医療への取り組みは非常に重要だが、どんなアプローチをしていくか少し方向づけしていかなければならない。どういう取り組みが一番効果的で、医療産業都市にふさわしいのかを専門家を交えた検討委員会をつくって、あまり長い時間をかけずに方向付けを行ってはどうか。

明石のがんセンターを移転することは難しい。しかし、連携の仕方についてはがんセンター自身にも検討してもらう必要がある。

(市長)

ゲノム医療については、先端医療振興財団の理事長の本庶佑先生が世界的権威であり、その財団を、医療産業都市全体のシナジー効果が生まれるような組織に改組する予定にしている。また、本庶先生のご指導もいただきながら、どんなメンバーでどうアプローチをしたらいいのか、相談させていただきたい。

#### (4) 広域観光の振興

(県議会副議長)

神戸と西宮でインバウンド旅行者に関するデータを収集する新しい取り組みを行うと聞いた。電子スタンプと呼ぶそうだが、要するに、外国人旅行者が通り過ぎ、一時的にお金を落とすだけで終わらせず、ビッグデータとして分析するもので、「ここに来た旅行者はどこに行きやすい」、「ここに行った人はこんなものを買やすい」ということをデータ化して取り込むことを計画していると伺った。そういったインバウンドの取り組みを有意義に活用する工夫があればぜひ参考にしたい。

(知事)

中国では 6 6 0 兆円規模でスマートフォンを使った決済をやっているらしい。神戸・兵庫がインバウンド対策で使えるようなスマートフォンを使った決済の仕掛けを作っ

いくのが良いのではないかと。某銀行がスマートフォンを使った決済の会社を作っている。スマートフォン決済の最新地が神戸というだけで、中国の人たちが神戸に詰め寄ってくるきっかけになる可能性が高いのではないかと。県でも勉強するが、神戸市も一緒に勉強していただき、できるだけ早く導入する方向で検討してもらいたい。

神戸観光局で神戸の観光について協議をすることは必要なことだが、広域連携も大切である。そこで、神戸観光局に県も参画させていただいて、県・市連携の観光局にさせていただいたらどうか。名前には拘らないので、連携体制が十分とれるような仕組みを作ってもらえるとありがたい。

(市長)

神戸観光局への県の参画については検討させていただければと思う。もともと神戸の観光は、神戸市と観光コンベンション協会の二元的な組織になっていた。そのため民間の知恵や提案の活用が十分ではなかったため、これをできるだけ一元的に行い、民間主導で観光をやってもらおうという発想でスタートしたのが神戸観光局である。広域的な視点は重要であり、何も神戸市の中だけでの周遊みたいな発想で狭くやるということではない。例えば、観光ルートでも神戸の北部と三田や篠山などは一体的に観光ルートを設定するということが十分考えられる。それから、先般も淡路島との連携で、淡路市、洲本市、芦屋市、神戸市で連携して発信していこうという事業も開始した。近隣との連携や県からどういう形で参加していただくのがいいのか、そこはまたよく相談をさせていただきたい。

また、スマートフォン決済に関しては、まずは双方で研究からスタートしたい。

(市経済観光局長)

インバウンドのデータ収集は、これから取り組んでいく必要がある分野であり、検討を進めているところであるが、現在、多様な事業者がビッグデータを収集しており、活用にあたっては必要な部分だけを購入することが一般的である。必要な情報を購入しビッグデータとして活用するという取り組みは、今年度から進めていく予定である。

(県議会議長)

議会や行政は神戸港開港 150 年、県政 150 周年を意識しているが、県民、市民の方々は意識していないのではないかと。例えば、神戸市民は神戸港 150 年を認識していても、兵庫県民には分かり難かったように思う。県がもっとやらないといけなかったのかもしれないが、県市一緒になってやっているというアピールが若干足りなかったような気がしている。

議長になってから、多くの全国会議に参加しているが、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西は、ラグビーW杯、オリンピック・パラリンピックと比べたら残念ながら格段に認知度が低いという現実があり、これも県・市一緒になったアピールが必要。全国議長会でも、国への来年度予算編成に対する提言の中で、ワールドマスターズゲームズへ

の財政支援を要望し、また 13 都道府県議会議長会においても議案として提出し採択されたところである。関西開催ではあるが、オリンピックに次ぐ世界的な大会であり広く参加資格があるということを大きくアピールさせていただいた。これは市議会へのお願いになるが、ぜひとも政令市議会の議長会等々、あらゆる機会を通じて広めていただきたい。

(市会副議長)

副知事や県議長もいらっしゃったが、一緒に有名なスポーツ選手の方々と一緒にボウリング大会を行う企画があった。ワールドマスターズを市会でも広めていただきたいというお話だが、クローズした人間関係だけではなくて、有名なスポーツ選手と一緒に県民と一緒にプレーできるというようなことをやれば、広く知れ渡りマスコミにも取り上げてもらえるのではないかと感じている。

リハビリテーションセンターで、知事が非常に努力されて、筋電義手のバンクを設立されたと聞いている。子供の成長に応じた筋電義手が必要になってくるので、非常に重要な政策である。神戸市やリハビリセンターの陳先生とも連携してされていると思うが、2019 年に開催される国際義肢装具協会（ISPO）の世界大会を契機に、さらに県としても取り組みを進めていただきたい。今の状況はわからないが、筋電義手のバンクによって子供たちが義手等をずっと使えるようにフォローしていただいて、この大会を契機に、使う側の人にも喜ばれて、作る側の人兵庫から世界に売っていけるような、そういうものにしていただきたい。

(県福祉部長)

小児筋電義手のバンクについては、平成 28 年度末時点で、県の補助も入れて 8,718 万円集まっている。一方で訓練用筋電義手には公的助成がないので、1 本 150 万円する筋電義手について、兵庫県や他県の方にも貸与している状況にある。

2019 年の ISPO 世界大会に参加される方への事業拡大も考えられるが、現在検討しているのは、訓練義手に限らず、子供たちがスポーツをする場合には、訓練用義手とは違った義手を作らなければならない。そういった義手も貸与できるような取り組みを進めていきたいと考えており、知事とも相談している状況である。

## (5) 行政サービスの更なる改善

(市会副議長)

県・市の協調事業やその他一緒にやっている事業の中で、それは県だからとか、それは神戸市だからということで、なかなか上手くいっていないこともまだまだ存在すると思う。例えば、DV 被害者が、県の施設で一時保護を断られたので民間の施設に行ったとか。細かい話になるがこのような事例はたくさんあるので、そういったことをもう一度網羅的に見直していただきたい。



(知事)

県としてもDV被害者の一時保護先は一定数確保しており、断ったのは条件を満たしていなかったからかもしれない。

断ったり受けたりという行き違いがなくなるよう、相談窓口での調整についてはよく考えたほうがいいかもしれない。

防犯カメラの設置補助は、市は、県に応募することを要件にしているが、市の要綱等を市民目線で取り扱いを変えてもらわないといけない。

(企画調整局長)

県・市で実施している様々な事業をしっかりと市民の方の目線に沿って知っていただくということも大切である。他にも様々な事業について、よく連携をとり、どういった事業はどこでやっているということを市民の方に知っていただくということも含め、情報共有をさせていただきたい。その中で課題が出てくれば、それを改善する取り組みを進めてまいりたい。

## 5. 知事 閉会あいさつ

こういう堅苦しい場での情報交換ではなく、既に情報交換の機会はたくさんあるので、それぞれの分野で機会を活用してしっかり議論をし、将来に向かっての共通認識を形成した上で、協力しながら進めていきたい。

先日、市長が県議会に要望されたようだが、兵庫県からも市議会のほうに要望させていただかないといけないんじゃないかと感じた次第である。県としてやって欲しいことをまとめて、市及び市議会に要望することを考えていく必要もあるのではないかな。

今後、どのように具体化をするかはともかくとして、しっかりスクラムを組ませていただきたい。

## 6. 市長 閉会あいさつ

双方の正副議長からも、行政だけでは分からないような情報を教えていただき、また具体的な提言もいただいた。大変有意義な意見交換ができたのではないかなと思う。

本日、六甲山を含め具体的な方向性が見えたので、今後よく庁内で調整をして考え方を取りまとめて県にもお願い・提言をしていきたい。

また、県のお考えも聞かせていただき、目に見える形で本日の議論の成果を出していくことができるようにしっかりとやっていきたいので、引き続きよろしく願いする。